

神戸大学「志」特別入試の概要

——第1次選抜（文系）を中心に——

吉田 健三（神戸大学）

現代社会においては新しい社会に適応できる人材の育成が急務とされ、神戸大学は入試改革の一環として平成28年4月にアドミッションセンターを設立し、新しい入学者選抜方法の研究開発を進めてきた。その成果を基に平成30年度に神戸大学「志」特別入試をスタートさせた。本稿では、本学における新入試について、選抜方法、提出書類、実施要領、具体的な設問例および入学前教育などに関する説明を行い、今後の課題について考察を付した。

キーワード：高大接続システム改革, AO入試, 総合問題, 入学前教育

1 はじめに

神戸大学では、従来実施してきた推薦入試やAO入試とは別に、高大接続システム改革会議「最終報告」(平成28年3月)¹⁾の理念に基づいた入試改革の実施を決定し、平成28年度にアドミッションセンターを設立した。主に文系担当(筆者)及び理系担当の2名の教員が採用され、アドミッションセンター長を中心にその入試の研究開発を進め、平成30年度に第1回目の神戸大学「志」特別入試の実施に至った。

2 「志」特別入試の概要

2.1 求められる人材

「人文社会系・自然生命系において、それぞれの分野のリーダーとなって21世紀の人類社会に大いに貢献したいという、高い志をもつ学生を見出す」ことをねらいとし、最終選抜では対面選抜を実施している。

2.2 選抜方法の特色

第1次選抜と最終選抜によって合否を判定する。

第1次選抜では、志望理由や高等学校時代のさまざまな活動の経歴等に加え、本学で学ぶために必要な基礎的学力に対する評価をアドミッションセンターが行い、その資料を基に各部署が合否を判定する。

最終選抜では、目指す学部・学科等において、それぞれに特化した適性を見極め、専門分野にかかわる学力を有しているかを総合的に評価する。同時に、全ての受験者に面接を課すことにより、書面のみでは測れない学力を対面によって評価することを重視している。

2.3 募集人員・志願者数・合格者数

募集人員は全学10学部27学科(10コース/4専攻)

のうち、初年度は7学部15学科(8コース/4専攻)が参加し、定員は48名であった。本年度は、医学部保健学科看護学専攻が2名増加し、合計50名となる。

志願者数は116名。募集人員に対する志願者数の比率が3倍以上であったのは、文学部人文学科(8倍)、法学部法律学科(6.7倍)、医学部保健学科看護学専攻(4倍)、同理学療法学専攻(4倍)、工学部応用化学科(3.5倍)、農学部資源生命科学科応用植物学コース(3倍)、同生命機能科学科応用生命化学コース(5倍)であった。他方、医学部保健学科作業療法学専攻など5学科/コース/専攻において志願者は0であった。

合格者数は、合計31名であった。

3 出願時における提出書類の種類

出願時には、高等学校等において作成する調査書、学業等評価書、及び志願者本人が作成する志望理由

○ 言語表現等に関する主に試験または発表形式の大会の例

【記載項目】

正式名称、出場結果、活動の期間(大会の出場年月、部の在籍や役職の期間)、活動の種類(選択)、主催団体、競技形態(個人または団体(団体内での役割))、予選の内容(予選の有無、予選の規模)、上位大会の内容、受賞の内容(受賞者が複数の場合、受賞の本数)、上位賞の内容、部の在籍や役職の概略、テーマや論題等

名称 (部活動、発表、資格、受賞など)	活動の期間 (活動の期間や在籍、資格取得、受賞年月など)	活動の種類 どちらかを選択	添付資料 資料 No.
第○回○○言語学オリフピック○○大会(努力賞)	201○年○月	学校外の自主的な活動	No.○
概要	主催:○○○、個人参加。予選:有。1次予選出場:審判選手(○○名)、2次予選出場:審判経験(○○名)。上記大会出場(○名)、上位大会:○○大会出場(○○代表○名)、努力賞(○名)を受賞した。他の上位賞に○○賞(○名)、○○賞(○名) ... あり。		
名称 (部活動、発表、資格、受賞など)	活動の期間 (活動の期間や在籍、資格取得、受賞年月など)	活動の種類 どちらかを選択	添付資料 資料 No.
第○回全日本○○模擬国連大会(ベスト○○賞)/討論部(部長)	受賞:201○年○月 在籍:201○年度~201○年度 役職:201○年度~201○年度	学校外の自主的な活動	No.○と調査書添付
概要	主催:○○○委員会等、団体参加(1チーム2人で、予選や上記大会の課題は協働で作成した)。予選:有。予選出場チーム(○○○チーム)の内、上位○○チームが上記大会に出場。上位大会:上記大会の上位○名が日本代表として○○大会に出場。ベスト○○賞(○チーム)を受賞した。他の上位賞に○○賞(○チーム)、○○賞(○チーム) ... あり。議題:○○○○/討論部に在籍し、1年間部長を務めた(在籍及び役職の証明は調査書による)。		

図1 書類作成例の一部(『提出書類作成の手引き』より)

書、活動報告書の提出を求め、第 1 次選抜でそれらの内容を評価した。

提出書類作成の際に戸惑うことがないように、『提出書類作成の手引き』(A4 判 32 ページの冊子)を作成し、本学のウェブサイトからダウンロードできるように準備し、書類作成やインターネット出願に関する留意事項を詳細に示した。図 1 は、『提出書類作成の手引き』に記述した書類作成例の一部である。

3.1 学業等評価書

記載内容は、(1) 志願者の高等学校等での学業において特筆すべき事項、(2) 志望学部・学科・コース・専攻のアドミッションポリシー及び求める学生像からみて、志願者に関する特記すべき事項、の 2 点である。

3.2 志望理由書

記載内容は、(1) 志望する学部・学科・コース・専攻に関心をもった理由、(2) 大学入学後に学びたいことや大学卒業後の進路、の 2 点である。それぞれ A4 判で 800 字以内での記入を求めている。

3.3 活動報告書

様式(図 2)の【1】には、活動を証明する資料を

活 動 報 告 書			
志望学部	志望学科	志望コース・専攻	氏名
【1】 これまでの活動実績のうち、主なものを 5 つ以内で記入してください。			
活動名 (例: 運動部、読書会、ボランティア)	活動の期間 (例: 2022.10.1 - 2023.3.31)	活動の種類 (例: 部活動、ボランティア)	添付資料 資料 No.
概要			
活動名 (例: 運動部、読書会、ボランティア)	活動の期間 (例: 2022.10.1 - 2023.3.31)	活動の種類 (例: 部活動、ボランティア)	添付資料 資料 No.
概要			

【2】 【1】の「活動実績」のうち、特にアピールしたいものを 1 つ選び記入してください。

○ 400 字以内で記入してください。

【3】 主体性をもって多様な人々と協働して活動した記録を具体的に記入してください。

○ 300 字以内で記入してください。

図 2「活動報告書」の様式 (一部省略)

添付 (一部は調査書で証明可) した上で、最大 5 つの活動実績を記載する。【2】には、活動実績から特にアピールしたいものを 1 つ選び 400 字以内で記述する。活動の動機や目的、プロセス、得られた経験や学んだことなどを具体的に記述する。【3】には、主体性を持って多様な人々と協働して活動した記録を 300 字以内で具体的に記載する。

なお、調査書の活用の一つとして、下記の事項については、添付資料を求めず、調査書により証明したものとみなした。

- ・生徒会活動 (生徒会長等)
- ・委員会活動 (生活委員会委員長等)
- ・ホームルーム活動 (体育委員等)
- ・学校行事 (文化祭実行委員等)
- ・部 (学校公認団体) 活動の在籍、役職 (部長等)

4 活動報告書の記載事項等 (文系志願者)

本項では、文系志願者が記載した活動実績の紹介及び分析を行う。なお、農学部食料環境システム学科食料環境経済学コースは、一般入試では理系受験であるが、「志」特別入試においては文系受験である。

4.1 活動実績の記載数

活動報告書における活動実績の記載数は、表 1 の通りであった。最大 5 つまで活動実績を記載できるが、記入欄をすべて埋めていたのは 69.6%であった。1 つの記載が 2.2%、2 つの記載が 4.3%で、大半の志願者は 3 つ以上の実績を記載していた。

表 1 活動実績の記載数の比率 (%) (n=46)

記載数	1	2	3	4	5
比率	2.2	4.3	13.0	10.9	69.6

5 文系受験型の第 1 次選抜のデザイン

文系受験に関して、書類審査を除く第 1 次選抜のデザインは、表 2 の通りである。

大学で学ぶ上で必要な日本語や英語の読解力・文章表現力・論理的思考力及び数学的思考力等を問う記述式を主とした出題を行った。

5.1 模擬講義・レポート

5.1.1 実施要領

パワーポイントのビデオ作成機能を活用して、事前にスライドをビデオ化した。目的は次の 3 点である。

表2 文系受験型の第1次選抜のデザイン

1. 模擬講義・レポート [120分] 9:30~11:30
・講義を聞き、講義の内容に関する設問に解答する
2. 総合問題Ⅰ [120分] 12:50~14:50
・日本文を読み、設問に解答する
・数学的思考力を測る設問に解答する
3. 総合問題Ⅱ [120分] 15:20~17:20
・英文や日本文を読み、設問に解答する

注) 書類審査を除く

(1) 志願者が多く、受験会場が複数になる場合に対応できる。

(2) 講義者が講義中に間違えた内容を伝えたことに気付かずに試験会場で訂正せず、出題ミスをおかすリスクを未然に防ぐことができる。

(3) 講義者が、当日何らかの理由で講義を行うことができないリスクをなくすことができる。

模擬講義のスライド資料の冊子を事前に配付し、大型スクリーンにビデオ化されたスライドを約43分間投影した。その後、休憩なしで問題用紙、答案用紙を配付し、設問に解答させた。スライド資料の冊子は回収せず、解答する際に参考とすることを認めた。

スライド資料について、模擬講義前に配付したり、設問の解答の際に使用を認めたのは、受験者の座席位置の違いによって、スライドの見やすさや音声の聞き取りやすさに対する不公平感が生じる事態を最小限に抑え、公平性を保つことを目的としたためである。

5.1.2 作問上考慮した点

作問に際して考慮した点とねらいは次の通りである。

(1) 模擬講義を聴講しながら理解を深める理解力と、メモをうまくとって、解答する際に有効に活用するという大学入学後の学修に対する適性を測ることをねらいの一つとした。

(2) テーマは、歴史、言語、文化、法律、政治、経済（主に貿易）等、人文・社会科学の分野を網羅した内容を盛り込むことを念頭において模擬講義を設計した。

(3) 講義の内容に関しては、知識・技能に偏重しないことを考慮した。殊に、高等学校等における受験者の地歴公民の選択科目の違いで有意な差を生じさせないように配慮した。

(4) 設問ごとの難易度に差をつけ、得点のばらつきが生じるように工夫した。

5.1.3 作問の意図と設問例

(1) 模擬講義では、中国・日本・イギリスにおけるそれぞれの国での茶の文化史に関する情報を提供し、3国に共通する事項を問うことによって、講義全般の理解度を測ることを意図した。

[設問例] 模擬講義の内容を踏まえて、中国、日本、イギリスで茶が普及した過程における共通点を答える。

(2) 模擬講義の内容を基に、初見の史料を分析し説明できる思考力・判断力・表現力を測ることを意図した。

[設問例1] 模擬講義の内容を踏まえて、提示された「一次史料」（茶勝負の採点表）について考察し、説明する。

[設問例2] 模擬講義で学習した基礎的な知識と関連させて、模擬講義で直接説明されなかった事象を想像し、グラフの変化の原因を推測し、言葉でわかりやすく表現する力を測る。

[設問例3] 18世紀前半の上流階級の喫茶の習慣を描いた絵画（「3人家族のお茶」）を見て、当時の文化的背景について説明する。

5.2 総合問題Ⅰ

5.2.1 作問上考慮した点

(1) 受験者の大半が高校3年生であり、受験時期が9月である。その時期の学校の授業の進度や、部活動を引退後（多くは1学期後半）からいわゆる「受験勉強」を始める受験者の状況を考慮し、適切と考えられる難易度を設定した。

(2) 問題は、同じテーマの複数の日本文を読み設問に解答する大問、及び数学的思考力を測る設問に解答する大問で構成した。

(3) 偏りのない得点分布は、5.1.2(4)と同じ。

5.2.2 作問の意図と設問例

文化的アイデンティティに関する論文を提示し、論文の内容理解を基に、2つの具体的な事例について説明させた。テーマが関連する3つの日本文の内容を総合して、文章相互の内容を有機的に理解し、その理解に基づき具体的な事例について説明する力を測ることを意図した。

[設問例1] 海外で成長した後に帰国し、日本のやり方に合わせるように圧力を受けた少年の事例を、論文の解説を踏まえて説明する。

[設問例2] 日本とアメリカの両方の文化的アイデンティティをもった女性の事例を、論文の内容を踏まえ

て説明する。

※数学的思考力を測る設問は、数学教員の担当のため、本稿では省略した。

5.3 総合問題Ⅱ

5.3.1 作問上考慮した点

(1) 難易度の設定に関しては、5.2.1 (1) に同じ。

(2) 大問 3 題で構成し、同じテーマの日本語と英文の関連性を読み解く力(大問 1)、英文を精読する力(大問 2)、英文の文脈に応じて英語で表現する力(大問 3)を測定できるよう考慮した。

(3) テーマは、大学入学後の学修に関連するもの、および英語学習、法学に関連するものを選んだ。

(4) 偏りのない得点分布は、5.1.2 (4) に同じ。

5.3.2 作問の意図と設問例

大問 1：日本語 1 編と英文 2 編の 3 つの資料を読んで、それぞれの文章の関連性を理解し、アクティブラーニングに関する記事の読解力と表現力を測ることを意図した。

【設問例 1】 M.I.T. での「初修物理学」で勧められているアクティブラーニングについて説明する。

【設問例 2】 ノーベル賞受賞者の Carl Wieman 博士が指摘している学生の記憶力の実態について説明する。アクティブラーニング導入の理論的背景の理解をねらいとした。

大問 2：アメリカのロースクールに出願する際に実際に提出されたすぐれたエッセイを読んで、新しい体験を通して法律に対する認識を新たにした筆者の心の変化を読み取る力と日本語で説明する表現力を測ることを意図した。

【設問例】 本文の内容と一致するように、7 つの英文の空所に適切な語を入れる。(7 つの英文が本文のどの個所に関連し、どの語が入るかを考えることが求められる。英文全体の読解力を測る。)

大問 3：山中伸弥教授の講演の一部を題材にして、英語の対話文を完成し、文脈に応じた適切な英文を表現する力を測ることを意図した。

【設問例 1】 山中教授の座右の銘である「塞翁が馬」の核となる意味を英語で表現する。(山中教授の講演から、おじいさんが近所の人たちに語った話の内容を簡潔に要約する力を測る。直訳ではなく、内容をよく咀嚼する力を求めた。)

【設問例 2】 山中教授が神戸大学の新生に伝えたいことを英語で表現する。(山中教授のことばの要点をとらえ、簡潔に表現する力を測る。)

6 入学前教育

入学予定者全員(文系・理系の両方)に対して、神戸大学学習管理システムを活用し、以下の要領で入学前教育を実施した。

(1) 12 月～大学入試センター試験まで

高等学校における学習を重視し、センター試験に向けた学習の取り組みレポートを提出(2 回)

(2) 大学入試センター試験以降(3 月上旬まで)

・指定された課題(原則、文系は英語・数学・国語、理系は英語・数学・理科。学科によって追加課題を指定)について、取り組みレポートを提出(2 週間に 1 回、計 3 回)

・一部 e-learning を活用。Voice of America(英語)、大修館 国語情報室(国語)、NHK 高校講座 現代社会(ラジオ放送のストリーミング)

・「確認テスト」(英語、国語、数学)を解答させ、添削指導を実施した。(2 週間に 1 回、計 3 回)

・探究的活動：高校で取り組んできた研究、または、学部学科に関連した分野の課題を各自が設定し、研究活動に組み込み、第 2 回スクーリングのポスターセッションで発表させた。

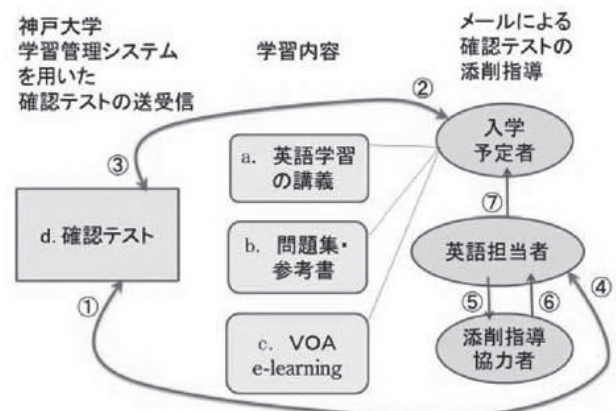


図 3 入学前教育の添削指導のイメージ(英語の例)

7 今後の課題

提出書類に関して、次の 2 点を見直す必要性が認められた。(1) 学業等評価書では、記述内容の質的欠如がみられるものがあり、志願者の資質について評価者が個々の調査書で補完しなければならなかった。(2) 活動報告書の記載事項と添付書類との照合に想定以上の時間を要し、照合方法が検討課題の一つとなった。

また、最終選抜は対面型の選抜方式を採用するため、第 1 次選抜ではある程度の人数に絞る必要があり、第 1 次選抜の得点分布の偏りは避けなければならない

が、受験者の学力を想定するデータがなく、偏りのない得点分布を得ることは容易ではない。設問ごとの難易度は十分に考慮し、初年度はまずまずの結果であったが、あくまで「経験値」に基づいており、今後はデータを蓄積し、難易度設定の検証を深めることが重要である。

入学前教育については、物理的に本学の教員だけでは添削指導ができないので外部の教員に委託する必要があるため、人員の確保や費用負担が課題となる。退職教員への依頼や、受講生の自己負担が今後の検討課題である。

注

- 1) 文部科学省「高大接続システム改革会議「最終報告」の公表について」平成 28 年 3 月 31 日